

市民参画に係る企画・運営委員による座談会（第11回）《要旨》

平成24年5月10日（木）午後7時から午後9時まで

コミュニティセンター 第1集会室

参加者 15人

【市民】岩垣、尾池、大野、小島、坂本、佐野、白石、藤井、増井、宮崎、宮本、山本

【職員】政策企画室 又賀、浅見 地域づくり支援課 中島

座談会における内容は以下のとおり

- 1 市民座談会に出席しているメンバーの「私の市民参画」について語った。
 - ・黒目川を中としたまちづくりを市民参画で行いたい。現在、県の補助事業として企画段階である。川周辺の環境を「点→線→面」と広げていきたい。
 - ・何故、参加する市民の数が少ないのかを考えるべきである。参加したいと思っている市民はいると思うが、何に参加して良いのか分らないのではないのか。そのため、市民参画のしくみづくりを考えていきたい。
 - ・市民参画で提案をしても、市に採用されないこともある。座談会で「〇〇なまち朝霞」など、大きな課題を設定してはどうか。
 - ・座談会で全ての分野に話ができる訳ではないため、市民参画の手法を検討していけば良いのではないか。
 - ・兵庫県では、「健康」をテーマにまちづくりを進めているようである。
 - ・使命感や義務感だけでは市民参画は出来ないと思う。そこに「面白さ」がないと参画は出来ない。理屈ではなく、「面白さ」を出す「仕掛け」が必要である。
 - ・達成感が大事である。実現出来ない提言書では意味がない。
 - ・行田市のまちづくりへの取組みは、近隣市から取り残されたという危機感があったため「何とかしなければならぬ」との思いから始まったのではないか。朝霞市はそのような機運がないのが現状ではないか。
 - ・地域によってまちづくりに関する要望は変わってくると思う。
 - ・平成23年度に作成した報告書に基づいてしくみづくりを考えて行けば良いと思う。
 - ・個人もNPOなどの法人も関心がない分野にも目を向けられるようにできないか。
 - ・気軽に話ができる役所になって欲しい。
 - ・コミュニティに市民参画ができるしくみが必要である。
- 2 次回の市民座談会は、「市民参画のしくみ」の方法をテーマにメンバーで議論をする。
- 3 次回の座談会について
 - ・平成24年6月14日（木）午後7時から
 - ・場所は別途連絡する。